

令和4年度 大田区地域ケア会議区レベル会議 議事要旨

日 時

令和5年2月1日（水） 午後2時20分～午後2時50分

次 第

1 開 会

2 議 案

(1) 検討テーマ 『認知症高齢者及びその家族のための社会参加支援や
地域コミュニティづくりに向けた取組』

説明：高齢福祉課長

～ 意 見 交 換 ～

3 閉 会

資 料

【資料①】「令和4年度地域ケア会議区レベル会議 検討資料」

議事要旨

高齢福祉課長

- 令和4年度大田区地域ケア会議区レベル会議を始めさせていただきます。
- 司会を務める高齢福祉課長です。よろしくお願いします。
- 令和4年度大田区地域ケア会議区レベル会議次第に沿って進めさせていただくが、議事進行については会長にお願いしたい。会長、どうぞよろしくお願いします。

会長

- 議事（1）、令和4年度検討テーマである『認知症高齢者及びその家族のための社会参加支援や地域コミュニティづくりに向けた取組』について、事務局からご説明をお願いします。

高齢福祉課長

- 【資料①】「令和4年度地域ケア会議区レベル会議 検討資料」について
 - ・地域ケア会議については、介護保険法にて、市町村は地域ケア会議の設置に努めなければならないと定められています。
 - ・大田区では地域ケア会議を個別レベル、圏域レベル、区レベルの3階層で行っています。このうちの圏域レベル会議は、出張所を基本単位とする18の日常生活圏域レベルと、蒲田、大森、調布、糎谷・羽田の4つの基本圏域レベルの2種の会議で構成さ

れています。本、区レベル会議は、推進会議と同時開催としており、地域課題等の解決のための政策反映などの役割を担っています。

- この区レベル会議で委員の皆様にご検討いただきたい今年度のテーマとして、「認知症高齢者及びその家族のための社会参加支援や地域コミュニティづくり」を取り上げ、第1回推進会議の場で諮らせていただきました。
- 認知症高齢者やそのご家族等が様々な活動を通じて社会参加を果たし、各々が有する能力を存分に発揮いただくことができれば、高齢者の方にとっては生きがい・やりがいの創出へとつながり、また、地域にとっては、様々な立場の方の参加が促進されることで、活性化が図られると考えます。
- このテーマは大変奥深いものであり、限られた時間の中で方向性を見出すことは困難であると考えられます。このため、本日は、認知症高齢者等の社会参加に係る検討を行うためのスタートアップの場として、「考えられる社会参加の事例」や「大田区における認知症施策の近況」についてご案内し、そこから、「効果的な社会参加の方法について」や「社会参加を果たすために有効な民間事業者等との連携の在り方」などについて、次年度への継続した意見交換をもって検討していければと考えています。
- 認知症高齢者の主だった社会参加の方法を、【資料①】枠の1つ目に「社会参加の一例」として示しました。認知症カフェは当区のほか、他の自治体でも多くの取組がみられます。また、認知症高齢者も、就労を通じて社会と関わりをもっています。働き方も多様で、「注文をまちがえる料理店」で知られるようにレストランの接客係に従事したり、今までのご経験を活かした“ものづくり”や通訳などのお仕事をしたりする方もいらっしゃいます。認知症の当事者としての経験を活かして、他の認知症の方の相談に乗る、ご自身の体験談をもとに講演をする、なども非常に有効な社会とのつながりの手立てと言えます。
- 区の最近の認知症施策について、枠の2つ目に記載させていただきました。
- 株式会社セブン&アイ・フードシステムズとの連携により、デニーズ池上通り店の場所をお借りし、認知症カフェを毎月1回開催する予定です。もちろん、各地域包括支援センターでも、現在も認知症カフェ等の運営支援をしています。
- ステップアップ研修を受講した認知症サポーターと認知症の人やご家族の支援ニーズとをつなげる仕組みを作るのが「チームオレンジ事業」です。現在、このチームオレンジの活動開始に向けた検討、調整を進めています。
- 若年性認知症の方々の活動としては、東邦大学看護学部キャンパス内の緑地帯の手入れや、区内の児童公園の清掃ボランティアに取り組んでいただいています。
- このように、認知症の方々にご活躍いただく可能性は様々なところにあると考えられます。また、認知症についてともに考える地域の一員として、サービスを提供する相手方としてなど、様々な場面で民間事業者や団体などとの連携の可能性もあると考えています。

- ・ご案内した情報を参考としていただき、「例示した以外にどのような社会参加の方法が考えられるか」、「どのような民間事業者等との連携が、どのような内容で考えられるか」などについて、委員の皆様アイデア、意見などをいただけるとありがたいと思います。それを踏まえ、次回以降、より深めた意見交換ができればと考えています。よろしく申し上げます。

会長

- 事務局より、認知症高齢者の社会参加の手段、大田区の認知症高齢者施策の近況についてご説明いただきました。これらの内容をもとに、認知症高齢者やそのご家族の社会参加、そして社会参加を通じた地域コミュニティづくりに繋がるような方策は何か、そのような方策に向けて行政や民間事業者団体等とどのような連携をしていくべきかについてご意見を交換できればと思います。この場で全て検討するという訳ではないが、今後の検討に向けて、まずは思うところをブレインストーミングとして皆さまにご発言をいただければと思います。
- 委員の皆様、意見・質問はありますか。何かのきっかけになるようなご発言で結構なのでお願いできればと思います。

委員

- 大田区とセブン&アイ・ホールディングスが協定を結んだと記載があったので、【資料①】でおそらくデニーズさんがこのような共同の場所を提供されているのもそのひとつではないかと思いました。69%の方々が「区の認知症施策について知っているものはない」という回答状況なので、セブンイレブン等、身近に街にあるものを通じて情報発信ができればより認知症の施策を進められるのではないかと思います。区報、掲示板等での周知はあるが、ほかにもコンビニのような、より身近な場所での情報発信や、もの忘れ検診の周知等ができると、区民としてとても目につきやすいと普段感じています。また、レジで見守る店員の方々がサポーター養成講座を受講しているという話も聞くので、そこが情報の拠点のひとつになれば、認知症に限らず困っている方へのお手伝いがより広がっていくと感じています。ぜひご検討いただけるとありがたいと思います。

高齢福祉課長

- ご推察の通り、セブン&アイ・ホールディングスとの連携協定も含めて、そのような関係がきっかけになっていることは間違いありません。デニーズのような様々な場所に情報発信の場をつくっていくべきとのご意見は、まさにその通りだと思います。様々な事業者様も含め、ご理解をいただきながら、広めていきたいと思っています。

委員

- 他にご意見・ご質問はありますか。

委員

- 社会参加事例について、専門的な能力を要せず体を使う仕事やグループでやるとはかどる仕事を例として上げるのはいかがなものか。

会長

- 事務局の方で表現を再考していただくということで、貴重なご指摘に感謝します。
- 他にご意見・ご質問はありますか。

委員

- 委員と同意見で、「専門的な能力を要せず」というのは、認知症の方の中には専門的なことに関して詳しい方々もいらっしゃるもので、逆にマッチングの方が大切な気がします。
- 大田区では様々な取組を行っているが、発信力が弱い気がします。現在、LINE等で様々な情報発信がされているが、そこにリンクを張り、区の取組等にアクセスできる窓口としてはとても良いツールだと思います。高齢者でも、お友達と繋がりためにLINEは一生懸命勉強するということもあるので、紙を印刷して配ることに比べ、費用がかからないデジタルデバイスを使ったもので、セキュリティに考慮しながら様々な広報をしたらいかがか。

高齢福祉課長

- 資料の中身について、「専門的な能力」と書いてしまうと、それに縛られてしまい、ご指摘のとおり受け取られてしまうこともあると思います。こちらは訂正していきたいと考えます。先ほど申し上げた専門知識を活用する方もいれば、どのような方でも自分の力でやっていけるものがあるという意図で書かせていただいたが、皆さんのご意見をいただきながら、表現については修正したいと思います。
- 発信力の件については、ご発言のあったLINEもひとつの手段ということを改めて認識させていただきました。LINEのような様々な手段を使い、発信・広報をすることが大事だと考えているので、工夫をしながらやっていきたいと思っています。

会長

- 他に、ご意見・ご質問等ありますか。

委員

- 資料下段に大田区の認知症施策に係る近況の記載があるが、2つ目のチームオレンジ事業の展開に向けた取組について、私自身、以前認知症サポーターの研修を受けたことがあります。ステップアップ研修ではないと思うが、研修を受けてバンドをいただいたが、研修を受けた後のつなぎを何も感じることはできませんでした。資料にも地域の認知症支援に係る活動へ案内することと記載があるが、現在どのようなつなぎをやっているか、もしなければそれをさらに進めていただけたらと思います。

高齢福祉課長

- 以前の認知症サポーター養成講座を受講いただいた方には、サポーターとしてご活用いただきたいとお願いをしていたが、今年度はサポーター養成講座を受けた方に、次の段階となるステップアップ研修の受講をご案内しています。そして、学んでいた能力をチームオレンジ事業、認知症の方々への具体的な支援に生かしていきたいと考えており、現在、橋渡しをすべく、実践しているところです。

会長

- 初級編、中級編、上級編のように何層かの構造で段階的に勉強し、実際に実践活動される方まで裾野を広げていくようなかたちで研修や育成、実践活動をやっていかれると良いと思います。
- 私から2点意見をさせていただきます。
- 1点目は、今後認知症及びご家族の社会参加を支援していく中で、就労や有償の活動について、特に若年性認知症の方はもちろん、高齢の方に対しても、全くのボランティアではなく、額は少なくとも報酬やクーポン券がもらえるといったインセンティブを出す事例も多々あります。その際、地元の企業、民間の様々な事業所が、仕事や作業をお願いするようなマッチングの仕組みが重要だと思います。今回いくつかの事例を挙げていただいたが、例えばデニーズさんとのマッチングや出会いは、偶然何かの経緯で成立したのか、或いは仕組みとして、最近はよく民間企業との連携のプラットフォームづくりという表現を使う自治体も多いが、大田区では認知症にやさしい様々な企業と連携して協議会などを作り、アイデアをどんどん出していただくことや、「こういうことができる人を探している」、「こういうことができる人がいます」のように、より開いた形で企業とのネットワークを作っていくこともよくあると思います。それによって、様々な業種の方々が集まり、来る者拒まず去る者追わず、オープンな協議会のようなものでアイデアを出し合いながらやっていると、企業側にも収益があったり、作業をしてもらったりできます。逆に、頼む側にも様々な受け皿等があるので、仕組みをどこまで作っていくのかも今後の課題だと思います。似たようなものは、全国的にも様々な事例があるので、勉強していくことも大事だと思います。

- その際、完全に認知症に限って対応していくのではなく、広く高齢者全体の中で、認知機能や身体機能に関わらずできること等で細分化していくのもひとつだと思います。それについてはおそらく、企業とコミュニケーションをとっていく中で、企業の方が、これはこういう人をお願いします等、多種多様なアイデアがあると思います。私見ではあるが、できるだけ広く企業と連携して、高齢者の社会参加、社会貢献をするためのネットワークを作ってその中で、認知症に特化してできるもの等、細分化していくべきだと思います。そのような仕組みをどうしていくかについて今後検討していただくことが、重要だと思います。
- 今後一緒に勉強していく課題だと思うので、よろしくお願いします。

高齢福祉課長

- プラットフォームづくり等については、様々なところで実践も進められています。企業への就労の中で、ある面においてひとつ特化した部分を作っていくのも、活性化のひとつの流れだと思います。引き続き検討していきたいと思います。

大森地域福祉課長

- 今年度より、大田区高齢者見守り推進事業者連絡会を4地域別で実施させていただきました。区としても、見守り推進事業者に登録してもらうことだけが目的ではなく、見守りの仕組みをネットワークで作っていくことが大切であると思っています。今年度4地域で実施したところ、保険会社や銀行、鉄道、小売等、様々な業者の方に参加いただき、地域包括支援センターとの連携もでき、直接お話をさせていただいています。ネットワークづくり、プラットフォームづくりの活動をしながら、地域の中で見守っていくという取組が今年度スタートしたということをご紹介させていただきました。

会長

- 今おっしゃった通り、入口は見守りかもしれないし、そのような場を提供ということかもしれないが、相手は企業であり生産的な活動ができるアイデアもいただければと思うので、ぜひその辺のネットワークづくりを課題としていただければと思います。

青少年健全育成担当課長

- 先ほどプラットフォームのお話が出たと思うが、地域力推進部においても自治会・町会における加入率の課題があります。これについてはマッチングが非常に課題であるとし、マッチングをプラットフォーム化できないかと、現在検討しています。例えば、地域におけるニーズを1つの掲示板に載せ、その掲示板を見ていただき、デジタルで募集を行い、プラットフォームにアクセスしていただけてマッチングをするという仕

組みをこれから検討します。まだ検討段階ではあるが、このような考え方は、先ほどお話にもあったように、認知症予防の点においても少し領域として重なる部分があると思います。この活用に関して、部局間で連携ができるかどうかについては今後の課題と思い、発言させていただいた。検討課題として引き続き、一緒に考えて参りたく思います。

会長

- ただいまのご発言は、SNSやICTを使ったマッチングのシステムのご提案も含まれていたと思います。この件に関して、東京都でも、人生100年時代社会参加施策検討委員会が、区内全域を跨ぐような社会参加のマッチングシステムを構築していこうと、昨年立ち上がっています。おそらく大田区にも声がかかったり、意見を聴取したりといったことになるかと思うので、是非また東京都の情報があればご提供させていただきます。大田区での活動ということになると、おそらく完全にローカルというよりも、非常に広域での活動希望や、企業や事業主の方も広域でのネットワークづくりになると思うので、ICTやSNSの活用もこれから大事なポイントになるのではないかと見受けました。
- 本日は、キックオフとして、まずは皆さまからブレインストーミングということで、ご意見を頂戴しました。これに関しては、今後さらに議論を進めていきます。

高齢福祉課長

- 様々なご意見、ご示唆をいただき、感謝申し上げます。
- 地域ケア会議については、次年度も引き続き推進会議の後に開催を予定していきたいと思っております。
- 今年度の推進会議は本日の会議をもって終了となる。お忙しい中でのご参画、貴重なご意見に感謝申し上げます。
- 次年度は先ほども申し上げたとおり、大田区高齢者福祉計画・第9期大田区介護保険事業計画の策定年度となります。令和5年度における推進会議は、4回程度を予定しています。次回開催については、令和5年5月下旬から6月上旬を目途に調整を進めさせていただいています。改めてご案内をさせていただくのでご出席いただければ幸いです。よろしく申し上げます。
- 以上をもって本日の推進会議及び地域ケア会議区レベル会議について終了します。皆さま、どうもありがとうございました。